

I 論文の構成と小見出し

論文は以下のランクに従って構成し、それぞれに小見出しを付ける。

1

(1)

(a)

①

II 表記の統一など

1 アルファベットとアラビア数字は半角にし、前後の和文との間隔は空けない。

2 年代、年号、年齢、回数など数字はアラビア数字を使用。ただし一つ、二つ、など列挙する場合および、二度と、第二次世界大戦、第三者、第三帝国など単語の一部に数字を含む場合は漢数字を用いる。

3 注番号は、括弧の後、句読点の前に入れる。

例：「 」¹ …², …³。

4 注はマイクロソフト社のワードを使用して作成し、ページごとに脚注として表示する。

5 ダッシュ記号は、倍角を使用する。

6 原語表記は（ ）で括り、全体を「 」で括る場合には例のようにする。

例：「市民権 (Staatsbürgerschaft)」

7 ()内の括弧は全角〔 〕を使用する。

例：(この情報はドイツ歴史博物館が提供するウェブサイト LeMO [Lebendiges Museum Online] で確認することができる。)

8 引用文中の省略は全角(…)で示す。

9 引用文中に言葉を補った場合は、その部分を括弧でくくり、倍角ダッシュをはさんで筆者によるものであることを明記する。

例：彼女(作者の母親を指す——筆者)

10 イコール記号でない場合には、半角の=を使用する。

例：ザクセン=アンハルト州

III 注における文献表記

1 全体

(1) 注は文末注ではなく脚注とする。

(2) 文献情報はすべて脚注に記入する。文献リストは用いない。

2 邦文文献

(1) 初出の場合

- (a) 書籍：著者名『書名』（出版社名，出版年），・・・頁。
- (b) 翻訳書：著者名（訳者名）『書名』（出版社名，出版年），・・・頁。
- (c) 書籍所収の論文：著者名「論文タイトル」編者名『書名』（出版社名，出版年），・・・頁。
- (d) 雑誌論文：著者名「論文タイトル」『雑誌名』*巻*号（出版年），・・・頁。
- (e) 複数の著者や編者を併記する場合には /（全角スラッシュ）を使用する。スラッシュの前後にスペースは設けない。
- (f) 書名・論文タイトルの本題と副題の間は、1文字空けとせずに倍角ダッシュを使用する。
- (g) 出典に複数文献を併記する場合、全角セミコロン；を使用する。

(2) 再出の場合

- (a) 著者名 [紛らわしくないときは姓のみ] 『書名』 もしくは「論文名」 [長い場合には省略形] ，・・・頁。
[出版年での代替はしない。]
例：中村『論文執筆ルールブック』，150頁。 [中村，1998，150頁。とはしない。]

3 欧文献

(1) 初出の場合

- (a) 書籍：著者名 [名+姓] ，書名 [イタリック] ，出版地：出版社 [出版社か出版地のいずれかを省略することとは可] ，出版年，頁数 [ドイツ語の場合はS. …，英語の場合はp. …，を使用。S. やp.を使わずに頁数を数字だけで示すことはしない。]
例：Hans Jaeger, *Geschichte der Wirtschaftsordnung in Deutschland*, Frankfurt a. M.: Suhrkamp, 1988, S. 52.
- (b) 書籍所収の論文：著者名 [名+姓] ，“論文名” [ドイツ語は „論文名“] ，編者名，書名 [イタリック] ，出版地：出版社 [出版社か出版地のいずれかを省略することとは可] ，出版年，頁数
- (c) 雑誌論文：著者名 [名+姓] ，“論文名” [ドイツ語は „論文名“] ，雑誌名 [イタリック] ，巻・号，出版年，頁数
例：Egon Bahr, „Strategische Partnerschaft mit der russischen Föderation“, *Leviathan*, Heft 2, 2010, S. 135.
Mary Kaldor, „A New Model of Economic Growth“, *Review of Economic Studies*, No. 29, 1962, p. 188.
- (d) 複数の著者や編者を併記する場合には /（半角スラッシュ）を用い、& u. et.などは使用しない。スラッシュの前後にスペースをつける。
- (e) 編者は、ドイツ語の場合は(Hrsg.)，英語の場合はed.を用い、(Hg.) (hrsg.)などは使用しない。
例：Peter Steinbach (Hrsg.), *Der Widerstand gegen den Nationalsozialismus*, Berlin: R. Piper, 1993, S. 100.
- (f) 書名・論文タイトルの本題と副題の間は、ピリオドでつなぐ。
- (g) 頁数が複数にわたる場合、S. 15-20 や pp. 15-20 といった形にし、f.やff.は使用しない。

(h) 出典に複数文献を併記する場合、半角セミコロンを使用する。

(i) , . : ; の後、(Hrsg.)の前には1スペースを空ける。

例：_で示した箇所に、1スペースを空ける。

Leviathan,_Heft_2,_2010,_S._135.

Steinbach_(Hrsg.),_Der Widerstand,_S._100.

(2) 再出の場合

(a) 初出の場所から間をおいて再出する場合：

著者名〔姓のみ〕，書名〔イタリック〕もしくは論文名〔書名、論文名は長ければ省略形〕，頁数

〔a. a. O. op. cit. は使用しない。〕

例： Steinbach (Hrsg.), *Der Widerstand*, S. 100.

(b) すぐ続けて再出する場合は、上記の形をとるか、あるいはEbenda やIbid.〔英語の場合〕を用いてもよい。〔Ebd.のような省略形は用いない。〕

4 翻訳文献に原著情報を加える、あるいは原著の翻訳文献情報を加える場合には、後者を〔 〕に入れる。

例：アーネスト・ゲルナー（加藤節訳）『民族とナショナリズム』（岩波書店，2000年）。〔Ernest Gellner, *Nations and Nationalism*, Blackwell, 1983.〕

例：Ernest Gellner, *Nations and Nationalism*, Blackwell, 1983.〔アーネスト・ゲルナー（加藤節訳）『民族とナショナリズム』（岩波書店，2000年）〕

5 インターネット上の情報を引用する場合

URL およびアクセス年月日を明記すること。〔URL の後は全角1スペースを空け、全角括弧内に閲覧日を記載する。〕

例： <http://www...htm>. (2012年9月20日閲覧)

VI 校正について

原稿については、編集委員による校閲を行い、その後に著者に修正をお願いすることがある。

著者校正は初校のみとし、初校での修正は最低限の誤字・脱字等の修正に限定する。これを超えた修正が行われた場合には、その修正を受け付けない。